

二つのアメリカの衝突

放送局	NHKEテレ1・東京
放送時間	2017/01/30 00:45 ~ 2017/01/30 01:10 (25分)
カテゴリ	趣味／教育・会話・語学 ドキュメンタリー／教養・ドキュメンタリー全般 ドキュメンタリー／教養・社会・時事
付加情報	二ヶ国語放送 データ放送
番組名	スーパープレゼンテーション<字幕版>「“二つのアメリカ”の衝突」
番組概要	アメリカ同時多発テロの10日後、ダラスで起きたイスラム系住民を狙った銃撃事件。現代アメリカの縮図とも言える事件について人気コラムニストが綿密な取材をもとに語る。
番組詳細	2001年、アメリカ同時多発テロのわずか10日後、テキサス州ダラスでイスラム系住民を狙った銃撃事件が起こった。突然の銃撃で生死の境をさまよった被害者と死刑判決を受けた加害者がその後たどった運命……。ニューヨークタイムズの人気コラムニスト、アナンド・ギリダラダスが、綿密な取材をもとに、現代アメリカの社会問題の縮図とも言える事件についてプレゼンする。そこから浮かび上がる“二つのアメリカ”とは？ 【出演】作家…アナンド・ギリダラダス。 【キャスター】伊藤穰一、スプツニ子！。 【声】竹内栄治。【語り】OWEN 真樹。
出演者	伊藤穰一

2001年9月11日アメリカで起きた同時多発テロ。それをきっかけに始まったある衝撃の実話があります。あるコンビニで起きた銃撃事件。加害者は白人。被害者はイスラム教徒。この二人に時を経て生まれた思いがけない絆とは。多くの感動を呼んだ命のドラマが今明かされます。

アメリカのプレゼンイベント、テッド(TED)。様々な分野で活躍するスピーカー達。その新しいアイデアの世界へ。

伊藤穰一です。スプツニ子です。今日はこちらのアメリカで大きな話題を呼んだこのノンフィクション実話についてのプレゼンテーションです。タイトル「The True American」でわかるように本当に今のアメリカの現状を凄く上手に表してるプレゼンテーションで、彼(アナンド・ギリダラダス)を実はよく知っていて、このプレゼンテーションを見たら余りにも感動して即メールを送ったんです。

今回のスピーカーはニューヨーク・タイムズなどでコラムニストとして活躍する作家アナンド・ギリダラダス。インド移民の二世という立場からアメリカ社会の今を独自の視点で掘り下げてきた人物です。彼が2014年に発表した「The True American」9・11同時多発テロの直後に起きたイスラム教徒への銃撃事件がテーマのノンフィクションです。丹念な取材を通して事件の裏にあるアメリカ社会の真実にせまり大きな反響を巻き起こしました。去年の大統領選挙でも人種や宗教の問題が大きな争点となったアメリカ。この超大国で今何が起きているのかを語ったプレゼンテーションです。

お前どこから来た？白人の男がそう聞きました。どこからだ？2001年9月21日アメリカ同時多発テロの10日後のことです。人々は次の攻撃を恐れ罪を着せる相手を探していた。その前夜大統領は誓いました。敵を裁きの場所に引きずり出すか、こちらから、かたをつけに行く。テキサス州ダラス。タイヤショップとストリップ小屋に隣接するコンビニで一人のバングラディッシュ移民がレジを打っていました。彼の名は**レイスティン・ブンヤン**。祖国で空軍士官を務めていた彼は新たな人生を夢見てアメリカへ。ITを学ぶ資金と2ヶ月後に控えた結婚資金を貯めるためコンビニで働いていました。9月21日、男が店にやってきた。ショットガンを持って。**レイスティン**はさっと現金を出しました。正しい対処法です。ところが男は現金には目もくれず、お前どこから来た？と聞いてきた。なんですって？と**レイスティン**は聞き返した。そのアクセントで外国人だとわかると自称アメリカ自警団の男は**レイスティン**をショットガンで撃ちました。9・11の報復として。**レイスティン**は蜂の大群に顔を刺されたように感じた。実際彼の頭には無数の弾丸が突き刺さっていました。**レイスティン**は血まみれになって横たわり手で額を押さえていました。脳が飛びださないよう守っていたんです。コーランを唱え神に命乞いをしながら。死がせまっていると感じましたが、死ななかつた。但し右目を失い婚約者に捨てられ、大家からもコンビニのオーナーからも追い出された。彼はホームレスになった上、救急車代を含めた6万ドルもの医療費を借金として抱えることになったんです。それでも命は助かった。彼は自問しました。神に報いるにはどうするべきか。新たな人生を価値あるものにするには何をすべきか。そして自分に課された使命を見つけたんです。それはチャンスを与えるに値しないとみなされる人にやり直すチャンスを与えることでした。

私はインド移民の子供としてオハイオで生まれました。12年前大学を卒業した私は両親に反抗する道を選びます。両親が必死の思いで逃げ出した国インドへ行くことにしたんです。半年のつもりだったムンバイ滞在は6年に及びました。私は作家になり所謂第三世界と呼ばれる国々の多くで希望が芽生えつつあることを感じ取りました。ところが6年前アメリカに戻った私はあることに気付いた。アメリカンドリームが盛り上がっているのはインドだけだったのです。アメリカはそうじゃなかった。私が見た限りアメリカは二つの社会に分断されつつありました。夢に溢れる社会と不安に溢れる社会です。ダラスのコンビニで起きた事件は正に夢に溢れるアメリカと不安に溢れるアメリカの衝突でした。私は彼らのことを一冊の本にまとめました。それは二つに分断されたアメリカの物語であり、アメリカを再び一つにする可能性を示す物語です。

ショットガンで撃たれた**レイスティン**は担ぎ込まれた病院から翌日には退院させられてしまいます。右目の視力を失い、口をきくことも出来ず、顔中に銃弾を浴びている。でも保険に入っていなかったため、追い出されたのです。バングラディッシュにいる家族は帰って来いと言いましたが、彼は夢があるからと答えました。**レイスティン**はイタリアンのファミレスでウェイターとして働き始めました。白人への恐怖を克服するには最高の店です。敬虔なイスラム教徒である彼は、アルコールを拒否していました。でも働いているうちに酒を売らないと給料が減らされることがわかってきました。そこで彼はアメリカ的実利主義者のように、こう考えた。私が飢えることを神様は望んでいない。数カ月後**レイスティン**は店一番の酒の売り上げ高を記録しました。やがて彼はIT関連のパートの仕事を得ます。そして最終的にはダラスにある技術系の一流企業で年収数十万ドルの職に就いたのです。しかし物事がうまく回り始めても彼は勘違いしないよう心がけていました。こうなって当然と思わないようにしたんです。**レイスティン**は気付いていました。多くの人々がアメリカ人として生まれる好運に恵まれたにも関わらず、やり直すチャンスが得ることが出来ない。彼はイタリアンのファミレスでそれを目の当たりにしました。同僚の多くが子供の頃家庭崩壊や薬物中毒を経験していたんです。銃撃事件の裁判でも彼は自分を撃った男に関して同様の話を聞きました。遠くから憧れていたアメリカに近づけば近づくほど、もう一つのアメリカが実在することに気付かされる。やり直すチャンスに乏しいもう一つのアメ

リカです。レイスティンを撃った男が育ったのは、そのもう一つのアメリカでした。マーク・ストロマンは傍目にはパーティーの盛り上げ役で女の子の扱いが上手な男。前の晩にドラッグや喧嘩で騒いでも仕事は休まない。でも彼は常に悪魔と戦ってきました。アメリカの若者の希望を奪う三つの関門。悪い両親、悪い学校、悪い刑務所を経て大人になったんです。子供の頃母親にこう言われたそうです。あと50ドルあればお前を中絶出来たのに。少年時代は学校で突然クラスメイトにナイフを突きつけたりした。でも祖父母の馬をよく世話するなど優しい一面もありました。髭も生えないうちに逮捕され、少年院や刑務所に入れられたストロマンはやがて白人至上主義者を気取るようになり、ドラッグに溺れていきます。そして2001年の銃撃事件。ストロマンは死刑囚になりました。彼が撃ったのは一人だけじゃなかったのです。撃たれたのは三人。生き延びたのは、レイスティンだけ。皮肉にもストロマンは死刑囚になって初めて人が変わりました。思いやりのある人格者達が彼の人生に関わり始めたからです。牧師、ジャーナリスト、ヨーロッパに住む文通相手、彼らはストロマンの話に耳を傾け、共に祈り、自らの内面を見つめる手助けをし、改心の旅路へと送り出しました。彼は自分の人生を決定づけた憎悪と向き合いました。ナチスの虐殺を生き延びた人物の本を読み、鉤十字の刺青を悔やんで信仰心に目覚めます。そして銃撃事件の十年後、2011年のある日ストロマンは自分が撃った男性が自分の命を救うために戦っているという話を耳にします。実はその二年前の2009年、被害者のレイスティンは自分自身を見つめる旅に出ていました。メッカへの巡礼です。群衆の中でレイスティンは自分の為すべき務めを感じていました。あの時、死の淵で神と約束したからです。もし助かったら生涯をかけて人類のために尽くすと。それまでは、人生を立て直すのに必死でしたが、ようやく恩を返す時が来ました。レイスティンは報復を繰り返すイスラム教徒と欧米の仲裁役になることで神に報いようと決意します。その方法はイスラムの教えのもとにストロマンを許すということをして公にし、更にその死刑を阻止するためテキサス州と知事を告訴するというものでした。これが顔を撃たれた人間がとる行動？レイスティンの慈悲は信仰心によるものだけじゃなかった。アメリカ人としての市民権を得た彼は、ストロマンは惨めなアメリカの産物であり、この問題は単純に死刑で片付けることは出来ないと考えたんです。本質を見抜いた彼に触発され、私は本を書いた。一人の移民による懇願が綴られています。アメリカよ移民にだけでなくアメリカ人にも慈悲をかけて。あの時コンビニで衝突したのは二人の人間ではなく二つのアメリカだったんです。一つは夢をもって努力した今日の上に明日が築かれると信じるアメリカだ。もう一つは運命を諦め、ストレスに負け、絶望し、同族意識という最も古くから存在する逃げ場に引きこもってしまうアメリカです。アメリカにやってきた新参者で銃撃されホームレスになったにも関わらず、夢のアメリカに属していたのはレイスティンでした。一方ストロマンはアメリカ生まれの白人だったにも関わらず傷ついたアメリカの住人だった。二人の物語はアメリカの差し迫った状況を示す寓話です。私が誇りを持って祖国と呼ぶこの国はスペインやギリシャのように国民全員の将来が暗くなるような国家的規模の衰退を経験した訳ではありません。アメリカは先進国の中で最も成功し、且つ最も失敗した国です。世界のトップ企業が次々と生まれる一方で多くの子供達が飢えている。世界最高の病院がひしめいているのに、平均寿命が短くなっている状態です。今日のアメリカは例えるならば、体の半分がとても元気で、残りの半分が重い病に冒されているようなものです。2011年7月20日、レイスティンが涙ながらに死刑の阻止を訴えた直後、マーク・ストロマンは愛する祖国の手によって薬殺されました。その数時間前、二人は十年ぶりに言葉を交わしました。あの事件以来、二度目となった会話の一部をご紹介します。レイスティンは言った。マーク私が最も慈悲深い神に祈っていることを知ってほしい。私は君を許すし、君を憎んだことなど一度もない。ストロマンは答えた。貴方は素晴らしい人だ。心から感謝する。愛しているよ兄弟。驚くべき話はこれで終わりません。死刑の執行後、レイスティンは前科持ちで薬物中毒だったストロマンの長女に支援を申し出たのです。彼はこう言いました。君は父親を失ったがおじさんが出来た。彼女にもやり直すチャンスを掴んでほしかったんです。人類の歴史をパレードに例えるならアメリカのパレードカーのテーマは第二のチャンスでしょう。し

かし、アメリカは移民の子供に気前よく第二のチャンスを与える一方で、アメリカ生まれの子供には最初のチャンスすら与えなくなりました。アメリカは誰でもアメリカ人になることを許す懐の深い国。でも、全ての人にチャンスが与えられる訳じゃありません。ここ十年で700万人の外国人が、アメリカの市民権を獲得しましたが、中流階級の地位を手に入れた人はどれ位いるのでしょうか。中流階級の人数は年々減っています。1960年代以降、20%も減少している。この所得層から人々は転落しているんです。しかも、これは単なる格差に留まらないやっかいな問題です。アメリカの社会をまとめていた中間層は、二つに分断されてしまった。豊かなものはより豊かになり、高学歴のエリート層やグローバルな基盤に食い込んでいます。一方貧しいものはより貧しくなり、恵まれた人の目には触れない孤立した生活に陥っています。自分は富を独占する富裕層じゃないからと安心しないで下さい。近所に高級スーパーがある。家族の中に軍人はいない。給料は時給じゃなくて年俸だ。知り合いの殆どが大卒である。周囲に覚醒剤使用者がいる。最初に結婚した相手と今もうまくいっている。前科がない。これら全てあるいはどれか一つでも当てはまるなら貴方は何が起きているのか現状を知らぬまま問題の一端を担っている可能性がある。先人達は奴隷制度を経て、新たな社会を築き大恐慌を乗り越え、ファシズムを打ち負かし、公民権運動を推し進めた。私達の世代に課された倫理的課題は、分断された二つのアメリカを再び結束させることではないでしょうか。これは増税や減税で対処できる問題ではありません。ツイートしたり、アプリを作ったり、焙煎にこだわったコーヒーショップを立ち上げたりしたって解決しない。レイスティンのように、繁栄するアメリカに属する一人一人が疲弊するアメリカを自らの問題として、受け取めなければならない倫理的課題なんです。レイスティンのように巡礼の旅に出るのもいいでしょう。人生の目標を探してアメリカを歩き、もう一つのアメリカの希望と悲しみをその目でしっかりと見て下さい。そしてレイスティン同様自問して下さい。貴方に私達に何が出来るとか。どうすればより慈悲深い国を作れるのか。世界で一番発明が得意な私達なら、もう一つのアメリカが抱える問題の解決策を編み出せるはず。私達作家やジャーナリストは苦境に立つアメリカについて報道することが出来ます。ニューヨークやサンフランシスコからのアイデアではなく、もう一つのアメリカからのアイデアに資金を提供しましょう。もう一つのアメリカで教え、作り、生活し、祈りましょう。これが今の世代に課された使命です。分断されたアメリカが共に歩み、共に築き、共に挑む術をもう一度学びましょう。新たなチャンス溢れる社会。それは私達から始まるのです。サンキュー。

●2017年1月30日0:45、NHK Eテレで放送したものを文字起こししました。今アメリカではトランプが矢継ぎ早に大統領令を濫発して世界に不安を撒き散らしています。そのトランプを支持する人々がマーク・ストロマンに代表される歪んだ白人至上主義者です。トランプの正体はユダヤ・フリーメイソン・イルミナティ/スカルボーン/イエール大学一味の「新世界秩序」であり、ユダヤロンドンシティ組織で、日本の「二階組/東大閥至上主義/財務省」も同根です。トランプも安倍も所詮は単なる走狗であり使い走りに過ぎません。世界を裏で操っている勢力はロスチャイルド(ロックフェラーは番頭)帝国なのです。ロスチャイルド帝国は、ユダヤ至上主義であり、白人至上主義であり、拝金至上主義であり、『金』の亡者で、錬金術/悪貨は良貨を駆逐するの信奉者。世界を博奕漬けにして、全人類を「博奕依存症」(アメリカンドリーム)に仕立てあげたのです。人々は『不労所得』をステータスと憧れ、ユダヤ人から高利の金を借りて、せっせと博奕に励むのです。その結果、金儲けは博奕のディーラーである『金融証券市場』であり、そこを100%牛耳っているのがロスチャイルド・ロンドンシティ。今、ユダヤロンドンシティは、大馬鹿者の博打打ちドナルド・トランプを大統領に据えて、核のボタンを押させるのです。建前上は中国の膨張を抑止すると嘯くものの、本音はマーク・ストロマンの死刑執行/薬殺。つまり、ユダヤ人以外(異邦人)の大虐殺です。新ノアの方舟には、ほんの一握りの神に選ばれたユダヤ人が、「放射能解毒剤」と共に、この地球を名実共に魔窟にするのです。その神/ヤハウエとユダヤ人/イスラエルの正体こそ『悪魔』そのものなのです。

●ユダヤ人を「死海文書・義の教師」に改心させない限り人類は滅亡す。 新村 紘宇二・聖 四門